

令和3年11月1日

京都市立大原野小学校
校長 市川 幸司

令和3年度

京都市立大原野小学校 第一回学校アンケート結果

第一回学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し、学校運営協議会においてご意見をいただきました。その結果をお知らせします。さらによりよい大原野の教育を進めていきたいと考えています。今後とも、本校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

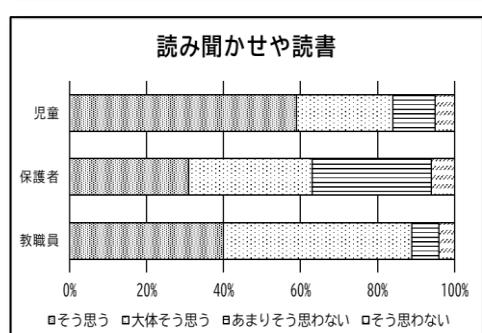
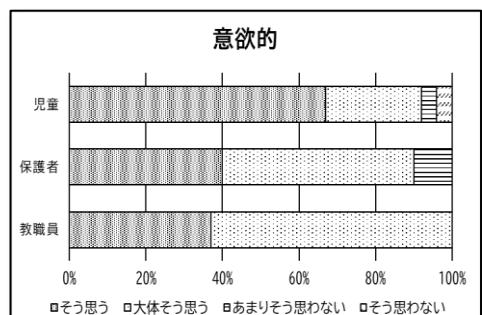
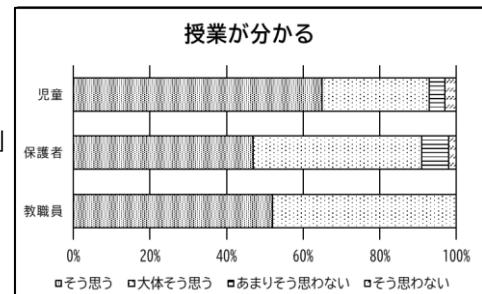
本校では、学校教育目標を「自ら学び未来を創造する子の育成～夢や希望をもって努力し自信をもって学び続ける児童～」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から、児童12項目、保護者13項目、教職員15項目のアンケートのうち、いくつかを取り上げて考察しました。

A…そう思う B…だいたいそう思う C…あまりそう思わない D…そう思わない

1. 確かな学力

①の項目「授業の分かりやすさ」については、児童は93%、保護者91%が A と B を合わせたプラス評価をしています。これは、毎時間の「めあて」「学習問題」を明確にし、児童が考え、「ふりかえり」をする授業が定着してきたからだと考えられます。1時間の授業をパターン化することにより、児童は学習の見通しをもつことができ、「授業のわかりやすさ」につながっていると考えます。また、具体物を使った操作活動を取り入れたり、ペア学習やグループ活動を取り入れたりなど工夫した成果だと考えます。さらに、今年度より一人一台の GIGA 端末を活用し、デジタルドリル『ミライシード』で漢字や計算などの定着を図ったり、『ロイロノート』で自身の思考をまとめ、互いの意見を交流し合ったりしました。しかし、高学年になるとほど A の割合が減ります。学年が上がるほど学習の難易度が高くなっている、学習が難しいと感じる児童が増えてくるからと考えます。また、学年に限らず、C と D を合わせたマイナス評価をしている児童もいます。全ての児童が「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う授業の実践をしていくことが必要だと考え、児童がよくわかったと実感できるよう、複数で学習指導に当たるなど、きめ細かな指導の在り方も考えていきたいと思います。

②の項目「授業や学習にがんばって取り組んでいるか」については92%の児童が A と B を合わせたプラス評価をしています。しかし、低学年と高学年の Aだけを比べてみると、低学年では78%、高学年では57%と、高学年が低くなる傾向にあります。指導者は、自信をもって「がんばっている」と回答できない原因を探ると同時に、授業の展開などを工夫し、一人一人が主体的に学習に取り組むようにしていきたいと思います。そのためにも、学習への意欲付けとして、意欲的な学習態度やできたことを大いに評価すること、学習の中で達成感を味わえる場面を多くもてるようになります。



ことなどが大切と考え、低学年から高学年へつながるように取り組んでいきたいと思います。

④の項目「本をよく読んでいるか」については、児童の A と B を合わせたプラス評価が84%と高いです。これは、校内の読書を促す取組が功を奏していると考えています。毎週の読書の時間や、読書ノートの効果的な活用、6月と11月の読書月間など、児童は読書に親しみ、日頃から学校図書館に通う児童もいます。しかし、C や D と回答した児童も16%います。それらの児童が読書に親しめるよう、学校司書とともに、魅力的な学校図書館づくりや、もっと読書に親しめる取組など考えていきたいと思います。また、家庭でも読書に親しめるよう、保護者の方とも連携を深めていきたいと思います。

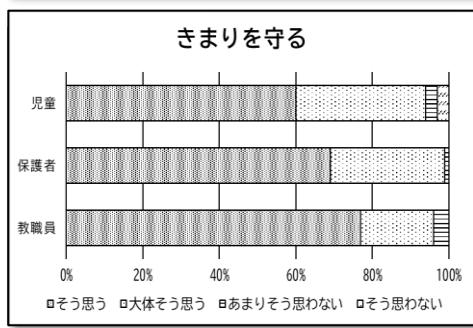
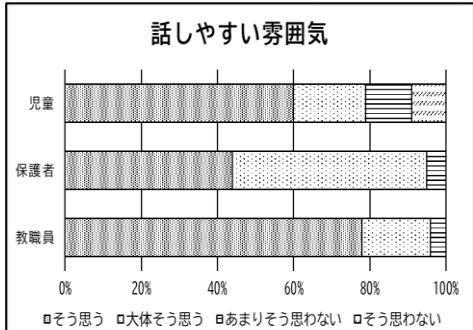
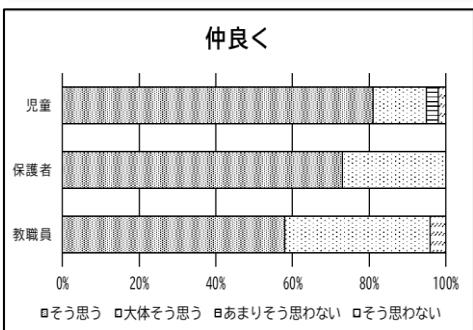
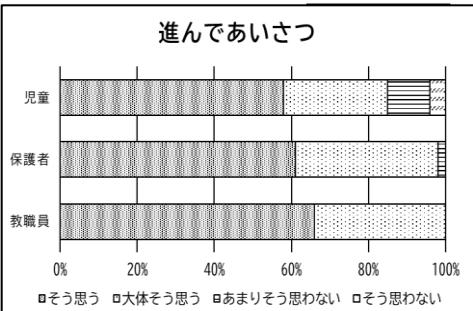
2. 豊かな心

⑤の項目「あいさつ」については保護者の方から98%の A と B を合わせたプラス評価がありました。ご家庭でもあいさつの大切さを伝えていることがわかります。また、児童も児童会の取組や PTA、地域の取組もあり「自分から進んであいさつをしている」と85%以上がプラス評価しています。しかし、普段の様子に目を向けると、進んで気持ちのよいあいさつができるいない児童もいます。今後も「目指すあいさつ」の具体例を示したり、自ら進んであいさつができるよう、取組を続けたりしていきたいと思います。

⑥の項目の「友達を大切にする」については、児童は95%、保護者は100%が A と B を合わせたプラス評価をしています。学校では、毎月「つながりの日」を設定し、その月の人権テーマに合わせ、学年に応じた内容を学習します。学習のまとめとして書いた「ふりかえりカード」は中校舎1階の「つながりコーナー」に掲示し交流しています。また、友達の良いところを終わりの会で伝え合ったり、見つけた良さを「きらきらカード」に書いたりなど、友達を大切にするための取組を積み重ねています。これからも様々な角度から人権意識を高める活動を取り入れていきたいと考えています。

⑧の項目「相談する」については、児童が79%、保護者が95%、A と B を合わせたプラス評価をしています。しかし、21%の児童が「困った事を相談する」事について C、D と回答しています。学校では、困った時に相談できることが大切だと考えています。そこで、日記帳(あのねちょう)や「さよならノート」などを利用し、児童の日常の様子や一人一人の思いを知るように努めています。他にも、「いじめアンケート」や「学校生活についてのアンケート」などをもとに、「先生と話そう月間」として、児童一人一人と面談しています。そして何よりも、日常から児童が安心して相談できる雰囲気をつくっていくことが一番大切です。教職員は「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」をこれからも心がけます。

⑨の項目の「きまりを守っている」では、94%の児童が A と B を合わせたプラス評価をしています。しかし、「そう思う」と自信をもって回答したのは、低学年が75%に対して、高学年は45%と、大きな開きがあることが分かりました。これは、決して高学年児童の規範意識が低いのではなく(Bは50%)、成長するにしたがって、自身を客観的に厳しく見るようになり、本当はきまりをしっかりと守っていても、自分の行動に自信がもてないでいると考えられます。そのような児童がいることを認識した上で、きまりを守ろうとする児童の意識や行動を、教職員や周りの大人が声をかけたり、ほめたりして、児童の規範意識をさらに高めていきたいと考えています。学校では、きまりは一人一人が学校生活を気持ちよく過ごすために大切なことであるという

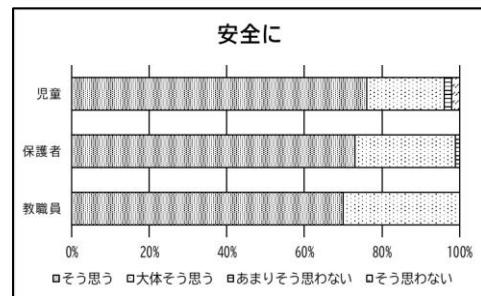
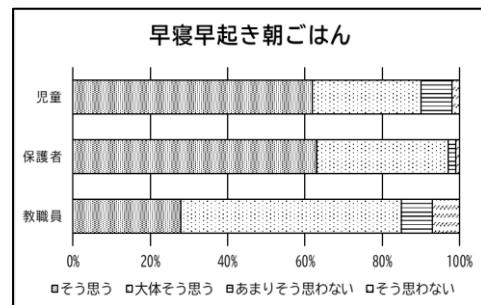


ことを指導していくと同時に、児童が進んできまりを守っていこう、と思えるような取組を行っています。児童会を中心に、毎月の「がんばろう目標」を決めて、全校で取り組んだり、学習や学級活動の中でルールの大切さを学んだりしています。このように児童が自ら、よりよい学校生活のために考え、実践することはとても大切だと考えます。

3. 健やかな体

⑩の項目「早寝、早起きをし、朝食を食べて登校する」については保護者から97%のプラス評価がありました。しかし10%の児童がCとDを合わせたマイナス評価をしていることも分かりました。学校としても、再度、規則正しい生活習慣の大切さを指導していく必要があると考えています。

⑪の項目「安全に気をつける」でも保護者、児童ともに「そう思う」「大体そう思う」と高いプラス評価の回答がありました。学校でも、毎月の「安全の日」に安全ノートを活用して、児童が校内・校外で安全に過ごすための学習をしています。特に、コロナ禍で様々な取組が中止になる中、安全面に関しては中止にすることなく、感染防止対策をとりながら、1年生の交通安全教室、2、3年生の自転車教室、4年生の免許証交付自転車教室(今年度は学科試験のみ)などを実施しました。また、機会があるごとに、登下校や校内での過ごし方、長期休業など休み中の過ごし方などについて指導しています。様々な場面・場所で危険を予測し、適切に行動できる力を家庭、地域と連携しながらつけていきたいと思います。



4. 「新型コロナウイルス感染拡大防止による学校の取組」についてのアンケートより

アンケートの回答から、昨年度と同様、学習面、健康面への不安をもっておられる保護者の方が多いことが改めて分かりました。学校として、引き続き、密を避けた学習形態や消毒液での手指の消毒、こまめな手洗い、教室の常時換気、校舎内の消毒などに取り組んでいます。また、6年生を対象として、GIGA 端末を自宅に持ち帰り、「ZOOM 接続テスト」を行いました。これは、新型コロナウイルス感染拡大という不測の事態に備えてのもので、6年生の保護者の皆様の協力で実施することができました。ありがとうございました。今後、様々な事態に柔軟に対応した取組を模索しながら、児童の学習の力を保障していきたいと考えています。

5. 教職員アンケートより

教職員も15項目について自己評価しました。多くの項目で教職員はAとBを合わせたプラス評価をしています。子どもを理解し、温かく支え、子どもの命を守りきることを合言葉に、それぞれの立場で教育活動に取り組んでいます。今後も、アンケートから見えてくる児童の実態や保護者のご意見を参考にし、保護者の皆様、地域の皆様と連携・協働した取組を推進します。

◎「確かな学力」について

教職員は、「基礎・基本の定着を図るための指導方法、形態の工夫を実践している」「『知りたい』『やってみたい』『できるようになりたい』と思うような授業を実践している」のどちらも100%プラス評価しています。しかし、AよりBの方が多くの回答となりました。今後も児童が意欲・関心をもって学習に取り組み、学習内容が定着するような実践をしていきます。

◎「豊かな心」について

「あいさつ」については、教職員はAで66%、Bで34%と評価しています。学校では児童が望ましい人間関係を築くとともに、自らを律し、社会生活を送る上で持つべき規範意識を育てるこにも取り組んでいます。「あいさつの大きさを伝える」ことについては、児童会から提案している「大原野3つのきまり」(相手の目を見て大きい声であいさつしよう・そうじは静かにテキパキし、後片付けもしっかりしよう・廊下は走らずに右側通行しよう)などを利用し、今後も様々な機会を通し、粘り強く取組を進めています。

◎「健やかな体」について

「安全について」の働きかけは保護者・教職員ともにAとBを合わせたプラス評価がとても高いです。教職員は心と体を大切にする児童の育成を目指し、スポーツを楽しむ機会を作ったり、性に関する指導、薬物乱用防止教室など様々な角度から教育活動を行ったりしています。学校だよりや保健だより、給食だよりなどを通して、今後も「命を大切にする」取組をご家庭や地域に伝えていきます。

学校が目指している児童の成長には、家庭・地域との連携が欠かせません。学校での取組を各種たよりやホームページなどを通して発信していくと同時に、児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けられているかなどについて、教職員は今後も自らに問い合わせをもちながら教育活動・学校運営を進めていきます。

6. その他(学校運営協議会でいただいたご意見を載せてています)

- ・地域の行事などが中止になり、とても残念だが、少年補導主催の生徒・児童画展では、子ども達の素晴らしい作品が多く出展され、とてもよかったです。冬の凧揚げ大会は、安全面を考慮し、来年度は違う遊びも考えていきたい。
- ・6年生児童が帰り道に1年生児童を助けてくれていた。学力学習状況調査の質問紙「困っている人を見たら進んで助ける」の項目の高さは納得できる。
- ・体育学習発表会を実施していただくなど、児童の自信をつける取組を行っていただいている。ほめることの大切さを実感している。
- ・体育学習発表会では、赤組と白組に分かれて得点を競い合っていた。切磋琢磨しながら成長する部分もある。
- ・学校アンケートについては、昨年度と比べてプラス評価が高いのか、マイナス評価が増えているのか。比較対象があると分かりやすい。
- ・昨年度より様々なPTAの取組を進めているが、やはりまだ不安もある。PTA行事に多くの保護者が参加して、子ども達の様子を見てほしい。
- ・今年度の全国学力学習状況調査は、全国平均を上回ったことは、良いことだと思う。地域・保護者・学校の努力が備わればこそその結果と言える。
- ・体育学習発表会での子ども達のがんばる姿に、コロナ禍を忘れてしまうほどだった。できることを少しずつでも進めていくことが大切だ。
- ・1年生交通安全教室、2・3年生自転車教室、4年生免許証交付自転車教室を、規模や実施方法を変更して実施することができた。安全教育を学校と地域で取り組むことができた。登校時の安全活動についても引き続き取り組んでいきたい。
- ・GIGA 端末が一人一台あり、最先端の学習をしていただいている。有効に、そして有意義に活用してほしい。